

～しあわせの島へ～

奄美市『未来づくり』総合戦略 2025
(デジタル田園都市国家構想総合戦略)

素案

令和7年3月

奄美市

～目 次～

I	はじめに	1
II	戦略の位置づけと計画期間	1
1.	戦略の位置づけ	1
(1)	戦略の位置づけ	1
(2)	計画期間	1
III	政策の方向	2
1.	基本的な考え方	2
(1)	目指す将来像(みんなで実現するなりたい姿)	2
(2)	基本理念	2
①	みんなで生活満足度向上を目指します	2
②	成長の源泉である元気な経済活動を目指します	2
③	未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承することを目指します	3
2.	戦略のポイント	4
(1)	社会動態をプラスにする！	4
(2)	子育て世代を増やす！	4
(3)	出生数を増やす！	4
(4)	人口減少に対応できるしまづくり！	4
3.	戦略の全体像	5
4.	全体指標	5
(1)	市民の生活満足度向上などを確認する指標（数値化できない指標）	5
(2)	人口減少対策の効果を確認する指標（数値として確認する指標）	6
5.	全体目標	7
(1)	社会動態	7
(2)	子育て世代(25～49歳)	7
(3)	出生数	7
(4)	人口減少に対応できるしまづくり	7
IV	施策の方向	8
1.	基本目標I「みんなで生活満足度向上を目指します」	8
(1)	基本目標	8
(2)	取組の基本的方向	8
(3)	具体的な施策と数値目標	8
①	子育ての“困った”をなくそう	8
(1-1)	質の高い教育・保育その他の子ども・子育て支援の総合的な提供 :	8
(1-2)	地域における子育て支援の充実 :	9
(1-3)	子どもの健やかな成長に向けた支援:	9
(1-4)	仕事と生活の調和の推進:	9
(1-5)	支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実:	9

(1-6) 子どもと子育てにやさしい地域環境づくり：	9
②健康・医療の“不安”をなくそう	10
(2-1) 市民主体の健康づくりの推進：	10
(2-2) ライフステージごとの健康づくり：	10
(2-3) 医療の確保：	10
③身近な生活の“問題”をなくそう	11
(3-1) 定住促進による活気のあるしまづくり	11
(3-2) 暮らしを守る防災力の向上：	11
(3-3) 持続可能な地域公共交通体系の構築	11
2. 基本目標Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」	12
(1) 基本目標	12
(2) 取組の基本的方向	12
(3) 具体的な施策と数値目標	12
④しまで働く人を増やそう	12
(4-1) 民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」※の総合対策の推進（※移住・職の確保・住居の確保）	12
(4-2) 地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり：	13
(4-3) 多様な働き方の推進：	13
(4-4) しまの情報発信の充実：	13
⑤しまの「しごと」を応援しよう	13
(5-1) 「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の深化：	14
(5-2) 「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進：	14
(5-3) チャレンジできる環境整備：	14
(5-4) デジタルを活用した社会課題解決：	14
(5-5) 誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり：	15
3. 基本目標Ⅲ「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」	16
(1) 基本目標	16
(2) 取組の基本的方向	16
(3) 具体的な施策と数値目標	16
⑥しまで学ぼう しまに学ぼう	16
(6-1) 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育	16
(6-2) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進：	17
(6-3) 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進：	17
(6-4) 生涯を通して学び活躍できる環境づくりと文化の振興：	17
⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう	17
(7-1) 世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ：	18
(7-2) 世界自然遺産にふさわしい 持続可能なしまづくり：	18
(7-3) 世界自然遺産についての広報・PR：	18
⑧みんなで「しまさばくり」をしよう	18
(8-1) 集落や地域活動の活性化による地域づくり：	18

(8-2) マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決：	19
(8-3) 男女共同参画社会の形成の促進：	19
(8-4) 公共施設の再編と活用：	19
(8-5) 奄美大島共同キャンパスの具体化：	19
V 政策の企画・実行にあたって	20
1. みんなの役割(体制)	20
(1) 市民の役割	20
(2) 地域(集落・自治会等)の役割	20
(3) 企業・団体等の役割	20
(4) 市の役割	20
(5) 国・県の役割	20
(6) 金融機関の役割	20
(7) 連携する大学等の役割	21
2. 施策の進捗管理(PDCAの着実な実行)	21
3. ロードマップ	21
VI 戦略のポイントごとの施策一覧	21

I はじめに

作成中

II 戦略の位置づけと計画期間

1. 戦略の位置づけ

(1) 戦略の位置づけ

本総合戦略の策定にあたっては、奄美市総合計画『未来の奄美市づくり計画』(以下、「未来計画」という。)で目指す将来像「自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島」を実現するための重点プロジェクトと位置付けます。

また、『奄美群島成長戦略ビジョン 2023』や『奄美群島振興開発計画』、『住用及び笠利地域創生戦略』等とも連動させることで、さらなる地域活性化に繋がります。

併せて、本戦略に基づく取組は、市民一人ひとり、企業や団体、奄美市役所が主体的に取り組む内容についての意見交換などをおして充実を図っていくこととします。

(2) 計画期間

計画期間は、令和7年度～令和9年度（3カ年）とします。

Ⅲ 政策の方向

Ⅰ. 基本的な考え方

(1) 目指す将来像(みんなで実現するなりたい姿)

未来計画では、「将来なりたい姿（将来像）」を、「自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島」としており、本戦略でも引き続き、「しあわせの島」とします。

(2) 基本理念

私たちが目指す「自然・人・文化が紡ぐ しあわせの島」実現のためには、様々な課題に対して、奄美市が持つ魅力や特性を発揮しながら、解決に取り組んでいく必要があります。そのためには、市民一人ひとりの行動、企業活動、行政の取組など、奄美市に住む私たちみんなが手を取り合い、協力し合うことがなにより大切です。

そのためには、取組を進めていく上でわたしたちが最も大切にすべき考えを共有することが大事です。未来の奄美市をつくっていくためにみんなが共有すべき考え方を未来計画と同様の3つにまとめます。

①みんなで生活満足度向上を目指します

・現在、奄美市に住んでいるわたしたち市民一人ひとりの生活満足度が向上することを最も重要視しましょう。「職」や「住」、「安心できる生活環境（子育て支援・医療・介護・福祉等）」などを、わたしたちにとってよりよくする取組は、ひいては移住を検討する方々にとっての魅力となり、わたしたちのまち奄美市の新しい魅力になっていきます。

・安全安心の基盤となる生活環境や防災体制、子育て支援や学校教育など、奄美市全体として均衡ある環境整備を進めながら、孤立化対策や集落の人口維持など3地区それぞれに特化して取り組むべき課題、地区ごとに持つ特徴や魅力の発揮など、3地区の個性にあわせた取組を話し合い、実行していきましょう。

・わたしたちの生活を取り巻く問題は、奄美市だけでは解決できないものも多く含まれます。だからこそ、国や県、関係町村はもちろんのこと、民間企業や学術機関、団体、出身者をはじめとする関係人口の皆さんなど、多くの関係者との連携・協力も大切にしながら、課題解決に取り組みましょう。

②成長の源泉である元気な経済活動を目指します

・奄美市発展の主役は市民であり、企業・事業者の皆さんです。行政は皆さんを支え、より活躍していただく環境を整える役割を担っています。この考え方は、奄美群

島全体の振興方策を示す「奄美群島成長戦略ビジョン 2033」にも示されており、奄美群島全体の振興方針と同じです。

・現在は、社会として対応すべき課題も様々なものとなっており、市民、企業、市役所が一緒に取り組まないと解決できない課題が増えています。だからこそ、民間・行政それぞれの強みを発揮する官民連携の重要性は大きくなっています。そのためにも、市民・企業と行政の対話・コミュニケーションの機会を積極的につくっていきましょう。

③未来を担う次世代へ「しまの誇り」を継承することを目指します

・奄美市の特徴的な文化・伝統は、集落・地域の生活の中にこそあります。新型コロナウイルス感染症による空白期間を乗り越え、改めて「地域のつながり」の大切さを実感している今だからこそ、世代間交流が生まれ、文化・伝統の継承の場となる地域活動の再活性化・再構築を進めましょう。

・世界自然遺産地域として認められた自然環境と、その自然とともに受け継がれてきた環境文化。これらはわたしたちの誇りです。この世界の宝を守り未来へつなぐ取組や世界自然遺産にふさわしい持続可能なしまづくりに取組んでいきましょう。

また、自然環境を守りながらも、上手に活用していくことも必要です。わたしたちの誇りである自然環境や環境文化を大切にしながら、それだけにとどまらないたくさんの魅力を、国内のみならず国外にも発信していきましょう。

・子どもたちに「ふるさと奄美市」を誇りに思ってもらうこと。このことも、私たちの大きな責任です。将来を担う子どもたちが、小さなときから高校生となるまで、世代を問わず地域文化にふれるとともに、地域の中で活動する機会をつくり、しまへの愛着を高める取組を推進しましょう。そして、いつか進学や就職で島を離れることになっても、多くの子どもたちが「将来は島に帰ってきたい」という想いが持てるようにしましょう。

・いつの間にか、ここ奄美市でも「ニガウリ」のことを「ゴーヤ」とよぶことが一般的になっています。しまの言葉を大切にすることはもちろんですが、わたしたちが受け継いできた特徴ある文化は、その形ばかりでなく、それぞれの背景や意味・心こそ大事との想いを持って、次世代に受け継いでいきましょう。

2. 戦略のポイント

総合戦略の策定にあたっては、未来計画で「人口の減少」が最も重要な課題として位置付けていることや「奄美大島人口ビジョン 2025」の目指すべき取組の方向性を踏まえ、戦略のポイントを以下の4つとします。

(1) 社会動態をプラスにする！

地域住民やUIターン者が、本市に帰りたい、住みたいと思えるしまとなるように「就業支援・住まい確保」に取り組むとともに、医療や福祉、防災など安心安全に生活するための定住環境の整備にも取り組みます。また、地域内経済循環を促進し、地域経済の「稼ぐ力」を高めます。

社会動態の目標値【3年(R7～R9)平均増減数】：+1

(2) 子育て世代を増やす！

子育て世代が抱える悩みなどをなくすため、個人のニーズに応じた多様な働き方を推進するとともに、遊び場づくりや情報発信など子育て世代に向けたサービスの充実に努めます。また、子育ての”困った”を相談しやすい環境づくりにも取り組みます。

子育て世代(25～49歳までの男女)の目標値：9,660人(R9)

(3) 出生数を増やす！

出会いの場の創出や子どもをはぐくむ環境の確保・充実を図り、結婚を望むすべての人が円滑に結婚できる環境を整えるとともに、安心して子どもを産み育てることができ環境づくりに取り組みます。

出生数の目標値：242人(R9)

(4) 人口減少に対応できるしまづくり！

人口減少が進む中、住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスの効率化(スマートシュリンク)を図るとともに、公共施設の再編とその活用策についても検討します。また、社会課題解決に向けDXの導入など、デジタル化社会の実現を目指し、人口減少に対応した魅力づくりを行います。

施設保有面積の目標値：356.877㎡(R7)

3. 戦略の全体像

基本目標Ⅰ 「みんなで生活満足度向上を目指します」

- └取組の基本的方向1 子育ての“困った”をなくそう
- └取組の基本的方向2 健康・医療の“不安”をなくそう
- └取組の基本的方向3 身近な生活の“問題”をなくそう

基本目標Ⅱ 「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」

- └取組の基本的方向4 しまで働く人を増やそう
- └取組の基本的方向5 しまの「しごと」を応援しよう

基本目標Ⅲ 「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」

- └取組の基本的方向6 しまで学ぼう しみに学ぼう
- └取組の基本的方向7 世界の宝にふさわしいしまにしよう
- └取組の基本的方向8 みんなで「しまさばくり」をしよう

4. 全体指標

未来計画では、15年間の長期的な取組の効果を図る指標を定めており、本戦略では3年後の取組の効果を図る指標として同様に定めます。なお、取組の効果は数値化しづらい一人ひとりの思いに関するものと、数値として取組の効果を共有できる2つを設定します。

(1) 市民の生活満足度向上などを確認する指標(数値化できない指標)

市民の「生活満足度の向上」や「誇りの継承」という、数値化しづらい取組については、これまで実施してきた「奄美市幸福度調査アンケート」を、毎年継続的に実施することで、その変遷を確認していきます。

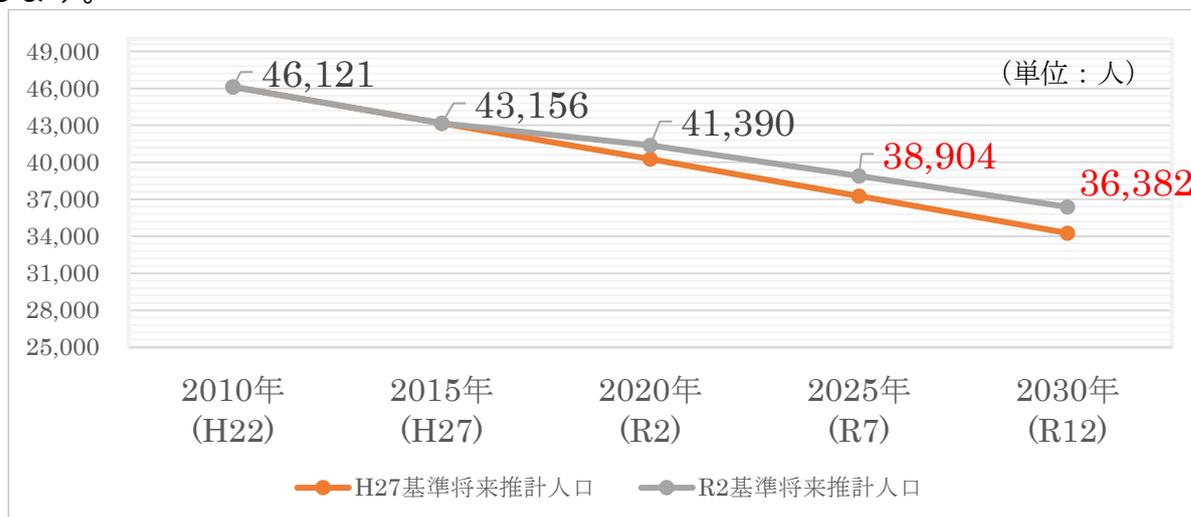
<生活満足度など数値化しづらい状態を確認する指標>

奄美市民の幸福度(市民が幸せに暮らしていると実感している状態)

なお、幸福度については目標値の設定は行わず、ありのままの生活実感を確認するものとして扱います。

(2) 人口減少対策の効果を確認する指標（数値として確認する指標）

奄美市が抱える最重要課題である「人口減少対策」について、取組の効果を共有する指標として、国立社会保障・人口問題研究所が示す将来推計人口と各年の国勢調査を使用します。



	2005年	2010年 (H22)	2015年 (H27)	2020年 (R2)	2025年 (R7)	2030年 (R12)
H22基準将来推計人口	49,617	46,121	43,284	40,798	38,223	35,693
H27基準将来推計人口	49,617	46,121	43,156	40,268	37,263	34,262
R2基準将来推計人口	49,617	46,121	43,156	41,390	38,904	36,382

※黒字は国勢調査実績値、赤字は各年の国立社会保障・人口問題研究所が示す将来推計人口
奄美市では、平成 22 年国勢調査を基準にした将来推計人口に対しては、平成 27 年国勢調査においては、将来推計人口値を下回る結果となっています。しかしながら、令和 2 年には平成 22 年及び平成 27 年いずれの国勢調査を基準にした将来推計人口値も上回っています。

人口減少対策に取り組むことにより、科学的に試算された将来推計人口を上回っていくことは可能であると考えます。そのため、本戦略に基づく様々な取組が、奄美市における重要な課題である「人口減少」に対して、効果があったかどうかの参考とすべく、将来推計人口と国勢調査人口を比較することとします。

<取組の効果を確認・共有するための指標>

人口減少が抑制されていることの確認（令和 9 年までの計画期間中）

令和 7 年国勢調査時 = 38,904 人を上回っている

<参考>

令和 12 年国勢調査時 = 36,382 人を上回っている

※ 本数値は令和 7 年国勢調査を経て、見直しを検討します。

5. 全体目標

本戦略では、「Ⅲ.2. 戦略のポイント」を踏まえ、4つの全体目標を設定します。

(1) 社会動態

「奄美大島人口ビジョン」では、「奄美群島成長戦略ビジョン 基本計画・実施計画(前期)」と同様に社会動態をプラスに転じさせることを目標としています。本戦略でも「奄美群島成長戦略ビジョン 基本計画・実施計画(前期)」の目標と同様の考え方とし、計画期間(R7～R9)における奄美市の3年平均増減数を目標とします。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
社会動態 (転入－転出)	△133人 (H29～R4年の平均増減数) ※R1年は自衛隊開設ため除く	+1人 (計画期間3年平均増減数)

※鹿児島県推計人口移動調査

(2) 子育て世代(25～49歳)

「奄美大島人口ビジョン」では、社会動態増のターゲット層を子育て世代(25～49歳までの男女)としており、本戦略でも同様の考え方とします。各年134人増やしていくことで、将来予測される人口を上回っていくことを目標とします。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
25～49歳の人口	10,339人 (R5)	9,660人 (R9)

※鹿児島県推計人口移動調査

(3) 出生数

「奄美大島人口ビジョン」では、出生数の増加目標を設定しており、本戦略でも同様の考え方とします。出生数を増やすことで、将来予測される出生数を上回っていくことを目標とします。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
出生数	261人 (R5)	245人 (R9)

※鹿児島県推計人口移動調査

(4) 人口減少に対応できるしまづくり

「奄美市公共施設等総合管理計画」と同様に計画策定時より5%削減を目標とします。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
施設の保有面積	375,660 m ² (H27)	356.877 m ² (R7)

※奄美市が把握する実績値(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

IV 施策の方向

1. 基本目標 I 「みんなで生活満足度向上を目指します」

(1) 基本目標

市民一人ひとりの生活満足度を向上させ、地域住民や UI ターン者が住みたい、住み続けたいと思えるしまづくりを目指します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
全体として現在の生活にどの程度満足している人の平均点(10点満点)	6.34 (R5)	〇〇〇 (R9)

※奄美市幸福度調査

(2) 取組の基本的方向

- 子育て世代が抱える悩みなどを解消し、子育てしやすい環境の整備に取り組めます。
- 医療や福祉、防災など市民が安心して生活するための定住環境の整備に取り組めます。
- 空き家対策などの推進による住まいの確保や「しまに住みたい」という思いをもつ移住者への移住支援に取り組めます。

(3) 具体的な施策と数値目標

①子育ての“困った”をなくそう

「子は地域(シマ)の宝」です。行政はもとより、家庭、学校、地域住民・事業所・関係団体が連携して、働きながら子育てのしやすい、地域全体で子どもや子育て家庭を支える環境づくりへの取組をより充実させます。また、子育てなどの新たな価値観に対応するため、子どもと保護者がともに親しむ“遊び・学び”の環境の充実にも取り組めます。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
毎年4月1日現在の待機児童数	1人(R6)	0人(R9)
この地域で、今後も子育てをしていきたい人の割合	92.8%(R6)	95%(R9)

※奄美市が把握する実績値

<主な施策>

(1-1) 質の高い教育・保育その他の子ども・子育て支援の総合的な提供

：【社】 【子】

次代の担い手である子どもが豊かな個性と感性を備え、かつ調和のとれた人間として成長するため、保育施設、幼稚園、学校、家庭、地域が協力し、教育力の向上と子

どもの「生きる力」を育てる教育環境づくりに取り組みます。

(1-2) 地域における子育て支援の充実：【社】 【子】 【出】

子どもの幸せを第一に考えて、全ての子育てをしている人が安心して子育てができるよう、子どもの健全な成長を地域全体で見守る様々な子育て支援サービスの充実を推進します。

(1-3) 子どもの健やかな成長に向けた支援：【社】 【子】 【出】

保護者に対して、親になる準備期間の支援をはじめ、産前産後ケアの充実、心配ごとを気軽に相談できる体制の拡充等、それぞれのライフステージや節目において、不安を感じることなく子育てができるよう、各種母子保健事業を充実させるとともに切れ目のない育ちへの支援体制を強化します。

(1-4) 仕事と生活の調和の推進：【社】 【子】 【出】

子育てをしながら働きやすい労働環境の整備や就労形態の多様化に対応した保育サービスの充実を図り、働く全ての人々が、仕事上の責務を果たしながらも、家庭や地域生活などにおいて、ライフステージに応じた多様な生き方の選択や実現ができるよう、ワーク・ライフ・バランスの実現を支援します。

(1-5) 支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実：【子】

子ども・子育て支援は、社会的な支援の必要性が高い子どもやその家族を含め、全ての子どもや子育て家庭を対象とするものです。障がい、疾病、虐待、生活困窮等、家庭の状況その他の事情により社会的養護を必要とする子どもと子育て家庭に十分な対応が行えるよう、家庭的な養護、自立支援策の強化という観点も踏まえ、社会的養護体制の整備を進めます。

(1-6) 子どもと子育てにやさしい地域環境づくり：【社】 【子】

本市の全ての子どもが健やかに成長し、伸び伸びと安全に活動できるよう、住居、遊び場を含めた地域の生活環境などの整備を進めるとともに、地域一体となって事故や犯罪から子どもを守る環境づくりを推進します。

②健康・医療の“不安”をなくそう

元気で長生きできるように健康寿命の延伸を図るとともに、すべての市民が個人として尊重され、希望や生きがいを持ちながらその人らしく安心して暮らせる定住環境を整備します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
地域の中に声をかけあえる仲間がいる人の割合 (高齢者)	男性：72.7% 女性：90.3% (R1年度)	男性：80% 女性：90.3% (R11年度)

※〇〇

<主な施策>

(2-1) 市民主体の健康づくりの推進：【社】

健康づくりの主役は市民です。市民一人ひとりが自分の健康づくりに主体的に取り組み、健やかな毎日を過ごせるよう、市の取り組みに加え、家庭や地域、学校、関係機関など社会全体が、個人の健康を支え守るための環境整備に取り組むことが求められます。各関係機関が相互に連携しつながりを強化しながら、個人の健康づくりを一体的に推進します。

また、生きることの包括的な支援として自殺対策を位置づけ、個人においても地域においても「生きることの阻害要因」を減らし、「生きることの促進要因」を増やす取り組みを推進します。

(2-2) 健康を支え合う地域づくり：【社】

ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えていくことを踏まえ、地域力の向上を目指し、地域で支え合う体制づくりが求められています。地域において取り組んでいる住民主体の健康教室・通いの場を、世代を超えて支え、参加することで、地域住民がふれあうきっかけとなり、健康づくりをとおして地域活動の活性化につながることも目指します。

(2-3) 医療の確保：【社】 【出】 【子】 【人】

市民が安心して暮らしていく上で耳鼻科、産婦人科、小児科など身近な医療機関が少なくなってきたことに日常生活への不安を感じる方もいます。そのような不安を解消するため、県や関係団体と一緒に医療の確保に向けて努めます。

③身近な生活の“問題”をなくそう

新居を求める地域住民や新たに「奄美市に住みたい」と願う移住者の想いを実現するため、空き家対策の推進など「住まいの確保」の充実に努めます。また、安心・安全に暮らせる災害に強いまちづくりを目指します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
本市施策を通じた移住者数	222名 (R5年度末累計)	〇〇名 (R9年度末累計)

※奄美市が把握する実績値

<主な施策>

(3-1) 定住促進による活気のあるしまづくり 【社】 【子】

これまでの景観にも配慮した空き家の活用促進及び危険空き家の除去促進に向けた相談・実施体制を一体的に行い、地域住民の生活環境の保全及び定住促進に向けた総合的な住環境整備します。また、各集落や行政への移住相談員の任命や空き家や求人、集落ライフ情報の公開にも努めます

併せて、移住・定住住宅購入費補助や移住・定住住宅リフォーム等助成金など住まい確保の支援に努めます。

(3-2) 暮らしを守る防災力の向上： 【社】 【子】

自主防災組織が実施する避難訓練などの活動支援、出前講座による啓発、関係機関を含めた全市民参加型の総合防災訓練を実施するなど、官民一体となった防災・減災の仕組みづくりに取り組みます。また、社会基盤の整備・施設の耐震化のほか防災拠点の整備等に取り組み、市民が安全安心に暮らせる災害に強いしまづくりを進めます。

(3-3) 持続可能な地域公共交通体系の構築： 【社】 【人】

近年、人口減少等の影響で公共交通の利用者数が減少するとともに、運転手等の担い手も不足し、公共交通を取りまく環境は一層厳しいものとなっています。そのような中でも、様々な分野で地域交通は重要な役割を担っており、地域交通の維持、確保に取り組むことが求められます。

地域公共交通が有する課題を踏まえ、公共交通が果たすべき役割を明確にし、路線の再編やデマンド交通の導入等、目標を達成するための事業について、関係各所との調整を行いながら、持続可能な地域公共交通体系の構築に向けて努めます。

2. 基本目標Ⅱ「成長の源泉である元気な経済活動を目指します」

(1) 基本目標

観光産業の振興をはじめとする各分野への支援を充実させることで、企業の活動が活発になり、市民の収入が増え、地域経済が好循環していくしまを目指します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
市民一人あたり所得	2,524 千円 (R3)	〇〇千円

※市民一人あたり所得=『市町村民所得推計』(鹿児島県統計協会)※目標値は計画最終年度時点に公表されている資料により確認する。

(2) 取組の基本的方向

○地域内経済循環を促進し、地域内の「稼ぐ力」を高めることで給与環境・就業環境の向上に努めます。

○各分野での人材不足を補うため、デジタル技術の導入による社会課題解決に取り組めます。

○働く方の置かれた個々の事情に応じ、多様な働き方を選択できるよう社会の実現に向けて行政と民間が協力して取り組みます。

○住民の生活水準を維持・向上させ、公共サービスの効率化を図ります。

(3) 具体的な施策と数値目標

④しまで働く人を増やそう

給与環境の改善・向上のために、地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくりや奄美大島に来てもらうための情報発信の充実など、経済活動の活発化に取り組むことで「しまで働きたい人」を増やすことを目指します。また、個人のニーズに応じた多様な働き方が選択できるよう、行政と民間で連携を図ります。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
年収 60 万円以上の子育てワーカ- の数	—	6人 (R9)

※〇〇

<主な施策>

(4-1) 民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」※の総合対策の推進(※移住・職の確保・住居の確保) : 【社】 【子】

市内事業所の人材確保や就業環境向上を図るため、給与住宅等の整備や確保に向けた取組や空き家活用を含めた住宅確保や資格取得へ支援を行うとともに、求職・

求人者のマッチング支援に努めます。

また、中高生向けへの職場体験の支援として、希望者と企業団体をマッチングし、若者の地元への定着や就労意欲向上を図ります。

(4-2) 地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり： 【社】 【子】

本場奄美大島紬や奄美黒糖焼酎などの特産品はもとより、島の素材を活かした加工製品の開発や高付加価値商品の開発を促進します。また、誰もが訪れたい島、いつまでも暮らしたい島を目指し、観光が地域の生活に好影響を与えるよう配慮しつつ、受入環境整備による来訪者の満足度の向上、様々な旅行形態の提案による滞在日数の増加、魅力的なサービスや商品を生み出すことによる観光消費額の増加、住民との交流促進や継続的な情報発信によるリピーターの獲得を図ります。

(4-3) 多様な働き方の推進： 【社】 【子】 【出】 【人】

深刻化する人材不足解消に向けて、在宅ワークやワーケーションの推進、フリーランスへの支援等の地元の働き方改革を行うことで、仕事の自由度を高め、個人のニーズに応じた多様な働き方モデルを創出します。また、短時間ワークや複業※制度の研究にも努めます。(※複数の仕事を掛け持ちすることを「副業」といいますが、今回使用している「複業」は複数の仕事に「正・副」の区別がなく、すべて本業として平行する働き方のこととされています。)

(4-4) しまの情報発信の充実： 【社】 【子】

「しまに帰りたいという方々」や「しまで暮らしたいという方々」のために就業環境改善など各業界の取組について情報発信に努めるとともに、島外での求人活動を促進します。

⑤ しまの「しごと」を応援しよう

地域内経済循環を促進し、地域内の「稼ぐ力」を高めるため、様々な企業支援に取り組めます。また、若者がチャレンジや新しいサービスづくりに向けた起業などを受け入れできる環境整備に取り組めます。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
新規創業件数(年間)	14 件 (R2)	20 件 (R8)

※〇〇(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

＜主な施策＞

(5-1) 「ありのままのしまの魅力」を引き出す観光関連産業の進化：【社】【子】

奄美大島の価値を理解した観光客が多く訪れるよう、奄美大島の情報発信を推進するとともに、世界自然遺産区域の保全活用が持続される取組や集落内の資源を活用した自然体の島暮らし体験型観光など豊かな自然環境、文化や歴史など、地域資源を有効かつ持続的に活かしていく取組を推進します。

また、シーズンを問わず、インバウンドも含めた一定数の旅行者が訪れる島を目指し、奄美の貴重な自然・歴史・文化等の地域固有の資源を保護しながら、それらを体験型観光として魅力を伝えるエコツアーガイドの育成・確保など奄美の世界自然遺産登録による観光客増対応し、将来にわたって素晴らしい資源を残していくためエコツーリズムを推進します。

併せて、観光産業の収益向上や従業者の雇用環境の改善を進め産業としての魅力を高められるように努めます。

(5-2) 「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進：【社】【子】

亜熱帯海洋性気候の温暖多雨な自然条件を活かした、サトウキビや園芸作物（たんかん・パッションフルーツ・スモモ・マンゴー等）の生産性を向上させ、新たに農業経営を営もうとする青年等の確保・育成を推進するとともに亜熱帯果樹のブランド化を目指します。また、地場産農林水産物の販売や加工品開発を支援し、新たな特産品の創出、販路拡大に努めます。

畜産については、子牛の商品性や粗飼料の自給率向上を推進するとともに、スマート農業技術を活用した、安心安全かつ効率的な農業を展開し、魅力ある産業の確立を図ります。

(5-3) チャレンジできる環境整備：【社】【子】

一人ひとりの個性が生き、いろいろな働き方を実現するため、起業や事業拡大・新商品開発などを行おうとする企業、若者へのチャレンジ支援や、さらにはチャレンジする人材を育成する環境の整備・充実に金融機関と一体となって取り組みます。

(5-4) デジタルを活用した社会課題解決：【社】【子】【出】【人】

農業などの担い手の高齢化や多くの業種における就業者の減少に対応するため、デジタルを活用した業務の効率化、VR を活用した観光、オンデマンド交通を利用した公共交通の利便性向上、事務作業や防災、物流を補助するための AI や自動化技術の導入など、多様な場面でデジタル技術の活用を目指し、しまにおける様々な課題解決

を図ります。

(5—5) 誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり： **【社】 【人】**

しまづくりを推進し、下支えする自治体業務におけるデジタル分野の改革を進めます。また、行政が有するデータ活用による地域課題解決や、マイナンバーカード普及・利用促進、デジタル格差の解消など、行政サービスの効率化及び高度化を進めます。

3. 基本目標Ⅲ 「未来を担う次世代へ『しまの誇り』を継承することを目指します」

(1) 基本目標

しまの歴史や文化、貴重な自然を次世代に受け継いでいくため、学習機会の提供や継承の場となる地域活動の再活性化・再構築に取り組み、将来は「しまに帰ってきたい」と思う子どもたちが増えていくしまを目指します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
奄美の良さを実感している 児童生徒の割合	小6 91%	小6 100%
	中3 94%	中3 100%
	(R1)	(R7)

※〇〇(目標値は新たな計画策定時に読み換える)

(2) 取組の基本的方向

- 子どもたちが歴史や文化を学ぶ機会を創出し、しまへの愛着を高める取組を推進します。
- 世界自然遺産にふさわしいしまになるように自然を守る制度や仕組みづくりに取り組みます。
- 市民と行政が協働して、集落や地域の活性化に取り組みます。
- 公共施設の再編とその有効的な活用策について検討します。

(3) 具体的な施策と数値目標

⑥しまで学ぼう しまに学ぼう

しまの恵まれた自然や教育的風土を学び、自分が生まれ、育った郷土のよさを実感し、郷土を愛し、郷土の伝統・文化に誇りをもつ子どもの育成に取り組みます。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
地域の伝統文化に参加・体験した 児童生徒の割合	92.0% (R5)	95% (R9)

※奄美市教育ビジョンアンケート

<主な施策>

(6-1) 未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進：【社】 【子】

子どもたちが、変化の激しいこれからの社会を生き抜き、未来を切り拓くために

は、基礎・基本を確実に身に付けるとともに、自ら学び、考え、主体的に判断、行動し、よりよく問題を解決する能力を育む教育を推進します。

また、伝統や文化を尊重し、それらを育んできた我が国と郷土を愛する態度を養うことや望ましい勤労観・職業観が身につく教育を推進します。

(6-2) 信頼され、地域とともにある学校づくりの推進：【社】 【子】

学校において、それぞれの教育の目標が達成されるためには、学校、教職員が役割を十分に果たし、「信頼される」学校づくりを進める必要があります。

また、地方創生の観点から、今後においても、学校と地域が相互にかかわり合い、地域を活性化していくことが不可欠であるとの考えから、「地域とともにある学校」づくりを推進します。

(6-3) 地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進：【社】 【子】

教育の振興には、地域が担う役割は大きいものがあります。地域の方々との触れ合いを大切にしながら郷土のことを学び、自然や文化、歴史を誇りに思い、いつまでも守り続けたいと思う気持ちを持つ子どもたちを育成するため、今後も、地域において子どもたちを守り育てるための取組を推進します。

(6-4) 生涯を通して学び活躍できる環境づくりと文化の振興：【社】 【子】

子どもから大人まで全ての市民が、生涯を通じて、あらゆる機会にあらゆる場所で学ぶことができ、その成果を適切に生かし活躍でき、豊かな人生を送ることができる環境づくりを推進します。

また、郷土の伝統文化や文化財を守り育て、様々な芸術に親しむことで、ふるさとの理解や豊かな感性を育てる取組やその場所を確保する取組を推進します。

⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう

奄美大島にしかない希少な動植物を未来に引き継いでいくために、生物多様性の保全や奄美らしい脱炭素の取組など持続可能なしまづくりを目指します。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
パトロール1回あたりの希少植物確認種数の年間積み上げ	1,440種 (R4)	1,440種 (R10)

※〇〇

<主な施策>

(7-1) 世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ: 【社】

奄美大島の自然をよりよい状態で未来に継承していくために、希少種とその生息空間を含めた、奄美の自然全体を保全するための取組を推進します。

また、人と自然が共生していける社会の仕組作りと、その取組を主体的に進めていく人材の育成などに取り組むことで、奄美大島の生物多様性を保全して未来に継承していくとともに、奄美大島の歴史や文化と、新たな技術や発想を活かし、生物多様性がもたらしてくれる恩恵を持続的に享受できる社会を目指します。

(7-2) 世界自然遺産にふさわしい 持続可能なしまづくり: 【社】

環境美化活動に対する町内会、自治会、集落への助成及び個人や企業の脱炭素への取組を支援するほか、世界自然遺産の効果を最大限に活かすため、官民連携して取組みます。また、地域循環共生圏の構築に向けた、廃プラスチック対策などの環境保全と資源循環による産業への展開に取り組むほか、国、県や関係団体と連携して、自然の適正利用のルールづくりに取組みます。

(7-3) 世界自然遺産についての広報・PR: 【社】

世界自然遺産に登録された奄美大島の自然環境は世界の宝です。自然体験機会イベントや子ども世界自然遺産講座、巡回展など島内外に世界自然遺産の魅力を広報・PRする取組を推進します。

⑧みんなで「しまさばくり」をしよう

地域住民が「地域活動は楽しい!」と思うような地域をつくり、集落の維持・活性化を目指します。また、民間と行政がお互いを対等なパートナーとして、率直な話し合いをできる関係の構築にも取組みます。

数値目標 (KPI)	基準値	目標値
「社会通念・慣習・しきたりなど」で男女平等であると感している割合	14.4% (R2)	20% (R14)

※男女共同参画に関する意識調査

<主な施策>

(8-1) 集落や地域活動の活性化による地域づくり: 【社】

本市を構成する社会の最小単位は集落や町内会・自治会であり、その集落や町内会などが集まり地域となり、地域が集まり、しまを形成しています。集落・地域

の元気のため、互いに知恵を出し、汗をかき、手を取り合った地域づくりを推進します。

そのために、公共施設の開放による集う場所の提供などこれまで島で受け継がれてきたみんながつながる場の創出や八月踊りや島唄など集落の伝統行事の保存活動を推進するほか、地域提案型事業により地域のリーダー人材育成も含めた、住民主体の課題解決や地域活性化の取組を推進します。

また、各郷友会の本土在住出身者の皆さまとの連携やふるさと納税を活用し寄附をいただく方々など新たな関係人口の創出にも努めます。

(8-2) マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決：【社】【人】

持続可能な未来に向け、一人ひとりがSDGsを「自分ごと」として捉え、多様な主体によるオール奄美での取組を目指します。

そこで、世代・分野・組織等を超えた多様なステークホルダーの連携による「奄美市SDGs推進プラットフォーム」、「奄美市PPPプラットフォーム」、「高校みらいコンソーシアム」を活用し、対話を通じた具体的取組を促進します。

(8-3) 男女共同参画社会の形成の促進：【社】【子】【出】

ジェンダー平等の取組の普及・啓発を図るため、男女共同参画の視点に立った地域コミュニティの形成に向けた基盤づくりや、多様な働き方のニーズに対応し、女性の就労を促す環境の整備に取組むとともに、各分野における女性の参画の拡大を図る取組を促進します。

(8-4) 公共施設の再編と活用：【人】

公共施設等総合計画で掲げている「減らす、増やさない」、「長く使う」、「無駄を省く」の3つの基本方針に基づいて、将来の負担を軽減・平準化していくために老朽化や活用されていない公共施設を再編し、新たな活用方法についても検討します。

(8-5) 奄美大島共同キャンパスの具体化：【社】

奄美大島への大学等設立可能性調査及び有識者会議からの提言を踏まえ、大学等による島内研究活動の活性化や奄美大島での研究成果の集積などの役割を担う「奄美大島共同キャンパス」の具体化に5市町村が連携して取り組みます。

V 政策の企画・実行にあたって

1. みんなの役割(体制)

市民一人ひとりが「しあわせの島」の担い手として自分の役割を理解し、役割と目標に基づいて自分から動き出すことから「しあわせの島」の実現に向けた第一歩がはじまります。

(1) 市民の役割

- ・市民一人ひとりが身近な誰かをしあわせにするために努力する
- ・地域がよくなるために自分ができることから実践する

(2) 地域（集落・自治会等）の役割

- ・住民と住民をつなげる
- ・住民に活躍の場を提供する
- ・子どもたちを育む地域環境をつくる

(3) 企業・団体等の役割

- ・稼ぐ（生産性を向上させる）ための努力をする
- ・収益を従業者の所得に反映する
- ・従業者が働きやすい環境をつくる
- ・子育てしやすい労働環境をつくる
- ・地域がよくなるために企業ができることから実践する

(4) 市の役割

- ・市民や集落、企業等の活動を後押しする
- ・がんばる人をつなげる
- ・子育て環境を充実する

(5) 国・県の役割

- ・地域の新しい取組を後押しするため、制度改正等により支援する

(6) 金融機関の役割

- ・民間企業等の「稼ぐ力」の向上を推進するため、創業・事業拡大に対し積極的に支援する
- ・産業を支える人材の確保や産業の付加価値の向上を図るため、副業・兼業人材とのマッチングを支援する

- ・新サービスや新商品の開発を促進するため、民間企業等のチャレンジを支援する

(7) 連携する大学等の役割

- ・地域の人材育成に積極的に関わる
- ・調査・研究結果を地域の企業と協働して経済活動につなげる
- ・地域の資源（自然・文化・歴史・農林水産物等）についての調査・研究を行う

2. 施策の進捗管理(PDCAの着実な実行)

本市においては、民間有識者等で構成する奄美市総合戦略会議を設置し、毎年度の数値目標の達成状況を管理するとともに、達成状況や社会情勢の変化に柔軟に対応した事業を展開します。

3. ロードマップ

作成中

VI 戦略のポイントごとの施策一覧

社：社会動態をプラスにする！ 子：子育て世代を増やす！ 出：出生数を増やす！
 人：人口減少に対応したまちづくり！

基本的方向	みんなの取組テーマ	社	子	出	人
①子育ての“困った”をなくそう	(1)質の高い教育・保育その他の子ども・子育て支援の総合的な提供	○	○		
	(2)地域における子育て支援の充実	○	○	○	
	(3)子どもの健やかな成長に向けた支援	○	○	○	
	(4)仕事と生活の調和の推進	○	○	○	
	(5)支援を必要とする子どもや家庭への支援の充実		○		
	(6)子どもと子育てにやさしい地域環境づくり	○	○		
②健康・医療の“不安”をなくそう	(1)市民主体の健康づくりの推進	○			
	(2)健康を支え合う地域づくり	○			
	(3)医療の確保	○	○	○	○
③身近な生活の“問題”をなくそう	(1)定住促進による活気のあるしまづくり	○	○		
	(2)安全安心に生活するための環境整備	○	○		
	(3)持続可能な地域公共交通体系の構築	○			○
④しまで働く人を増やそう	(1)民間・行政が一体となり「働き手確保」に向けた「移・職・住」の総合対策の推進	○	○		
	(2)地域外から外貨を稼ぐ仕組みづくり	○	○		
	(3)多様な働き方の推進	○	○	○	○
	(4)しまの魅力発信の充実	○	○		

基本的方向	みんなの取組テーマ	社	子	出	人
⑤しまの「しごと」を応援しよう	(1)「ありのままのしまの魅力」を引きだす観光関連産業の深化	○	○		
	(2)「かせげる農林水産業」実現に向けた取組の推進	○	○		
	(3)チャレンジできる環境整備	○	○		
	(4)デジタルを活用した社会課題解決	○	○	○	○
	(5)誰もが情報を暮らしに活かせるしまづくり	○			○
⑥しまで学ぼう しまに学ぼう	(1)未来を切り拓くための能力を伸ばし、社会で自立する力を育む教育の推進	○	○		
	(2)信頼され、地域とともにある学校づくりの推進	○	○		
	(3)地域全体で子どもを守り育てる環境づくりの推進	○	○		
	(4)生涯を通して学び活躍できる環境づくりと文化の振興	○	○		
⑦世界の宝にふさわしいしまにしよう	(1)世界の宝「生物多様性」を守り未来へつなぐ	○			
	(2)世界自然遺産にふさわしい 持続可能なしまづくり	○			
	(3)世界自然遺産についての広報・PR	○			
⑧みんなで「しまさばくり」をしよう	(1)集落や地域活動の活性化による地域づくり	○			
	(2)マルチステークホルダー・パートナーシップによる課題解決	○			○
	(3)男女共同参画社会の形成の促進	○	○	○	
	(4)公共施設の再編と活用				○
	(5)奄美大島共同キャンパスの具体化	○			